

The image of spaces for teachers and staff in Japanese elementary and junior high schools

1 Space for individual work

- ☑ Most schools have a staff room where all teachers gather and hold office hours. Each teacher has a desk there, but the space per teacher is not large.



Traditional staff rooms that were not ICT-enabled were full of paperwork

2 Space for collaborative work

- ☑ In addition to space for individual work, many schools have space for collaborative work.



A workstation with meeting tables, chairs, photocopier, etc. in one place



Recent ICT-enabled staff rooms are often cleaner and free of paperwork, even if the space per pupil is the same as in the past.



Junior high schools often have subject-specific preparation rooms for meetings and storage of teaching materials.

3 Space for refreshment

- ☑ Teachers and staff also need refreshment, but in many Japanese schools there are not sufficient places for them to do so.



A refreshment corner of staff room in some school. There is a fridge and a mini-kitchen at the back. It also serves as a meeting space.



A rest area in the women's changing room, where they can lie down if they are not feeling well

4 Space for communicating with children

- ☑ It is important to ensure an environment where children can easily consult with their teachers for learning advice after school.



A consultation corner set up in one corner of the staff room, separated by a low-backed counter



A consultation corner in front of the staff room

Educational Facilities Research Center, NIER, conducted a study on the ideal configuration of spaces used by teachers and staff, extending beyond just staff rooms, and published the “Research Study on the Design of Teachers and Staff Spaces” in April 2024.

Japan Mutual Aid Association of Public School Teachers also conducted a study on the effectiveness of facilities such as mother’s rooms and refreshment spaces, and published the “Report on Support Projects for Establishing Mother’s Rooms and Refreshment Spaces to Reform Teachers and Staff Work Styles” in January 2026.

Educational Facilities Research Center

Japan Mutual Aid Association of Public School Teachers

教職員スペースの在り方に関する調査研究（令和5年度）（概要）

背景 教師の長時間勤務実態等、教職員を取り巻く厳しい状況を改善し、教師の意欲と能力が最大限発揮できる執務環境を整備する必要がある。ソフト面の取り組みと合わせて、学校施設等について「教職員の働く場」としても捉え、効率性、快適性等の観点から見直し、改善を図ることで、より一層の効果を発揮し、子供たちへのより良い教育につながる。

目的 教職員のワークスペースとして充実した執務環境の確保の観点等から、教職員スペースの在り方について検討を行うとともに、整備事例を通じて、教職員スペースの計画のポイントを提案。

学校の職員室環境

【人員数】
学びの多様化と働き方改革の推進によるスタッフの増員により少子化と反比例し非常勤を含む**教職員は増加傾向**

【書庫量】
教材、学級運営、ツール等、**個人管理物は多種多様**
定型不定形関係なく、**書類・収納量は多い**

【執務面積】
JFMA民間室内最低基準6.0㎡を下回る（民間オフィスビル基準）
職員室が狭い学校は全体の50%程度（127校を捉えた47校）

	学校	民間
1人当たりの執務面積	4.8㎡	6.0㎡ 対 8.1㎡
1人当たりの書庫量	2.3㎡	1.3倍 1.8㎡

※※100年度調査結果、※2019年度調査結果 ※※ JFMA DATA BOOK 2019/2020 (JFMA)

＜小中学校＞ 10,942校
＜中学校＞ 4,666校

（出典：研究会資料（コクヨ開発発表資料）を一部編集）

働き方改革

● **教職員スペース改革**

☆改善のアイデアが自然と出てくるようになり好循環が生まれる

● **教職員スペースの改善**

☆少しずつ改善して使ってみる
※小さなことから試すことがポイント
☆先行錯誤を重ねる

● **主体的に検討を始める**

☆ワークショップやアンケートなど対話をする
☆校長・教頭、意欲のある先生、事務職員、教育委員会等のリデザインやガトムアップから始める
☆先進的な働き方に取り組むオフィスを見学することも参考になりアイデアが生まれる

教職員スペースの充実のために4つの必要な「場」

教職員スペースの充実のために必要な「場」を4つに整理し、学校種（小学校、中学校、義務教育学校等）、運営方式（特別教室型、教科教室型）、学校の規模等に配慮し、学校の教育方針・運営方針に応じて、必要な要素を組み合わせながらつくる必要があること、これらの必要な「場」が機能するためには、校務DXを進めることが不可欠であることを示した。

① 個人作業のための場 ② 協働作業のための場 ③ リフレッシュの場

④ 子供たちとコミュニケーションを取るための場

例えば、フリーアドレスの職員室やリフレッシュスペース（教職員専用のラウンジ、休憩室等）の整備などの事例がある。

教職員スペース改革に向けたステップ

教職員の働き方改革のためのマザーズルーム等の設置に対する支援事業に係る報告書【要点】

本調査研究のポイント

○ **調査研究の概要及びその影響**
公立学校で働く教職員を取り巻く状況に鑑み、令和5年度から2年間、全国14か所の教育委員会と連携して、自治体が学校に設置する「マザーズルーム」や「リフレッシュスペース」で使用する備品等の購入費用の一部を助成し（1団体へ最高50万円助成）、教職員の健康維持や健康回復への効果等に係る調査研究を実施しました。
当調査研究をきっかけとして、**文部科学省においてはマザーズルーム等の設置に当たり、「学校施設環境改善交付金」の対象であることを教育委員会あての通知に明示**され、当調査研究を実施した北九州市においては市の単独事業として、令和7年度から教職員向けのリフレッシュルーム導入（令和7年度は27校）を事業化するなど、既にその影響を見せているところです。

○ **教職員、学校及び教育委員会への調査結果**

(1) **教職員**（実施16校在籍）
・マザーズルーム・リフレッシュスペースの利用者からは**高評価**をいただきました（右図参照）。また、利用する機会がなかっただけで必要なときには使いたい、という意見が多数ありました。
・一方で、そもそも利用する時間がない、利用に当たって周知が十分になれていない等の課題があることも分かりました。

(2) **学校及び教育委員会**（16校・14教育委員会）
・教職員のストレス改善、職場環境改善に効果等があると評価される一方、スペース確保、費用等に課題を感じていることが分かりました。

○ **当調査研究でわかったこと**
マザーズルーム・リフレッシュスペースの導入は、教職員の心理的な安心感を与え、健康維持に寄与し、職場環境の改善意識を高めることが確認されました。
学校、教育委員会等において、無理のない範囲における整備等は可能であるため、教職員にとって、全国的に普及されることが望ましいことであると考えられます。

当調査研究の成果について、文部科学省、教育委員会等関係機関へ共有、広報することで、教職員の働き方改革や職場環境の改善を後押しします。

利用した教職員からの満足度調査結果（N=177）

利用者全体の約7割の方が高評価(8点以上)をいただきました。

<URL>

○ Educational Facilities Research Center, NIER: Research on the Design of Teachers and Staff Spaces

https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_seika/r06/r0604-01_kenkyuhonbun.pdf

○ Japan Mutual Aid Association of Public School Teachers: Report on Support Projects for Establishing Mother’s Rooms and Refreshment Spaces to Reform Teachers and Staff Work Styles

<https://www.kouritu.or.jp/content/files/kumiai/kyosai/jigyo/fukushi/mothersroom/mother%27s-room-detail.pdf>